

自然保護官



松本恵里さん

プロフィール (2021年3月)

大阪府出身。東京農工大学で森林の水循環を専攻しながら、自然環境について幅広く学ぶ。卒業後、環境省の自然系職員として本省、北海道地方環境事務所に勤務したのち、2019年に新潟県の佐渡自然保護官事務所へ赴任。

トキが大空に飛び立つ瞬間、「頑張れ!」と強く願う

Q 自然環境には、いつごろから興味があったのですか?

小学生のころ、父が購読していた天然記念物に関する雑誌を読み、イリオモテヤマネコやトキなどの写真を見ながら、日本に、たくさんの貴重な野生動物がいることを知りました。高校や大学で生態学を学ぶうちに、生息地を脅かされる野生動物がたくさんいることを知り、野生動物を守るには、安心して暮らせる環境を守ることが大切だと思って興味をもち始めたのです。

Q 自然保護官になろうと思ったきっかけは?

きっかけは、大学3年生のときに参加した公務員説明会です。その前より、野生動物が暮らせる自然環境を守る仕事に就きたいと考えていましたが、その説明会で「自然保護官」という仕事を知り、「この仕事がやりたい!」と思って国家公務員試験を受けました。現在は、トキの再導入(野生復帰)に主体的に携わり、多くの方と連携しながら取り組みを進めています。

Q トキはどのような鳥か、教えてください。

ペリカン目トキ科の鳥であり、学名を「Nipponia nippon (ニッポニアニッポン)」といます。1952年に国の特別天然記念物に指定されており、レッドリスト(絶滅のおそれのあ

る野生生物の種のリスト)のカテゴリー上は絶滅危惧IA類になっています。江戸時代までは日本のほぼ全域に生息していましたが、明治時代以降の乱獲により数が減り、昭和以降の開発行為や農薬の多用などによる生息環境の悪化で、絶滅寸前にまで追い込まれてしまいました。

1981年に野生のトキ5羽が人工繁殖のため捕獲され、日本のトキは自然界から姿を消しました。その後、人工繁殖の試みを続け、1999年に、中国から贈呈されたトキのペアで初めて成功して以来、飼育下のトキの数は着実に増えています。2008年には、飼育下で増やしたトキを野生に帰すために、佐渡の大空へ10羽のトキを放鳥しました。それ以降、毎年放鳥を行っています。

Q 野生復帰は、どのように行われていますか?

環境省が1967年に「佐渡トキ保護センター」を開設し、トキの飼育繁殖を行っています。2007年には、野生下で生きていくために必要な能力を身に付ける訓練施設として「野生復帰ステーション」が設置されました。そこで、採餌、飛翔、群れ行動、人間活動への慣れ等の順化訓練を約3か月間かけて行い、放鳥します。自然界では、トキは自分の力で生きていかなければなりません。トキが大空へ羽ばたく姿は、胸が熱くなる瞬間。「頑張れ!」と、心の中でエールを送っています。

Q 放鳥したあとも、サポートするのですか?

放鳥後は、「野生下のトキの現状を把握し、野生復帰の取り組み方針に反映させる」「得られた情報を人とトキが共生できる環境づくりに活かす」ことを目的に、トキのモニタリング調査を実施します。モニタリング調査では、トキの行動、生態、及び生息数などを把握します。具体的には、トキの巣を観察してふ化や巣立ちを記録したり、ねぐらから飛び立つ個体数を数えたりしています。現在、野生下に生息するトキの個体数は、430羽以上(2021年3月末時点)にまで増えました。

Q トキは地域住民と共生しているのですね。

いくらトキを放鳥しても、餌場、営巣地、ねぐらなどの生息環境が保たれていなければトキは生きていけません。トキの野生復帰は、地域住民の理解と尽力が礎となり成り立っているのです。

佐渡では多くの農家が野生復帰のために、トキに配慮した農法による米づくりを行っています。代表的な例として「生き物を育てる農法」があり、農薬や化学肥料を使わない、水田とその周囲に、生物の生息環境となる魚道やビオトープを設置するなどの取り組みです。魚や昆虫などの水生生物を育てることで、それらを餌にするトキやサギなどの生物に適した環境となり、豊かな生態系が実現します。トキを守ることは、佐渡の自然を守ることにもつながるのです。

Q これからの仕事の課題はありますか?

トキが野生復帰してから10年以上が経ち、トキを見かける機会が増えました。トキを観察するときは、車から降りない、農地へ無断で入らないなど、いくつかマナーがあります。しかし、観察するためにトキに近づこうとして、あせりに踏み込んで地域住民に迷惑をかけてしまうといったトラ

ブルも少なくありません。

長い時間をかけて築かれたトキと人とのよい関係を壊さないよう、トキの観察方法を多くの人に発信し、マナーを守ってもらう活動によりいっそう力を入れたいと思います。

Q 最後に高校生へのメッセージをお願いします。

私たちがあたりまえだと思っている、日々の生活、文化、産業、医療にいたるまで、自然の恵みがなければ成り立ちません。多様な生物に支えられた生態系は、私たちに多くの利益をもたらしてくれます(生態系サービス)。生態系を守るために、まずは自然を知ることが大切です。皆さんも、公園の自然に囲まれて過ごす、自然観察会のイベントに参加するなど自然に目を向けると、その心地よさに気付くはず。私たちを支えてくれる自然を守るために、何ができるかを考えてみませんか。



▲野生のトキのヒナに足環を装着するようす。個体ごとの生存状況を追跡調査できる